

「特別の教科 道徳」とは？

今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール（予定）

		2018年	2019年	2020年	2021年
小学校	道徳	全面实施			
	新学習指導要領	先行実施		全面实施	
	新教科書	検定	採択	使用	
中学校	道徳		全面实施		
	新学習指導要領	先行実施			全面实施
	新教科書		検定	採択	使用

このスケジュールのように、新学習指導要領が全面实施されるのは小学校で2020年度、中学校で2021年度からですが、これに先駆けて全面实施される教科があります。それが「特別の教科 道徳」です。これまでも週1コマの「道徳」の時間があったことを皆さんも覚えておられると思いますが、これは教科ではなく、教科外の特設時間という扱いで、使われている教材も、教科書ではなく副読本という扱いでした。それが、「特別の教科 道徳」として様変わりしたのです。

小中学校において「特別の教科 道徳」が始まることについて、3月の町議会で質問をいただきました。その内容は次のとおりです。

Q1：「特別な教科」の意味は？

A1：他の教科と同様に文部科学省が検定した教科書が支給されるものの、他の教科と違って専門の教員免許状はなく、評価も文章表記されます。

Q2：新しい道徳教育の目指すものは？

A2：学校の教育活動全体で行う道徳教育は「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」を目指しています。その中核となる週1コマの道徳科は、**道徳的諸価値**について理解し、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることを目指しています。

Q3：道徳的諸価値とはどのようなものか？

A3：小学校と中学校で違いはありますが、大きく次の4つに分類されます。

- ①主として自分自身に関すること（例：善悪の判断、正直、希望と勇気）
- ②主として人との関わりに関すること（例：思いやり、感謝、友情）
- ③主として集団や社会との関わりに関すること（例：勤労、家族愛、国際理解）
- ④主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること（例：自然愛護、感動）

Q4：評価はどうなるのか？

A4：個々の児童・生徒がどのように変容しているかを継続的に把握し、まとまった道徳的諸価値を視点として文章表記します。

○道徳はなぜ教科になったのか？

道徳の時間が教科外から教科となった理由、それは道徳の授業の質を向上するためです。本町の学校の授業がそうだというわけではありませんが、従来ありがちだったのは、教材の読み取りに終始し、教師の意図を探り、深まりのない話合いを行う道徳だったと言われていました。これに対して、今後の道徳科のスローガンとして「考え、議論する道徳への転換」が叫ばれています。

その人の道徳性が真に問われるのは、日常生活での言動です。私たちは、そうすべきだとわかっていてもできないことがあります。だれもが弱い自分を抱えて、葛藤の中で迷うのです。さらには、グローバル化の中で他文化の道徳的価値と折り合いをつけることも必要となっています。まさに、「答えがない」のです。そこで必要なのが、自らの頭で考える力、他者との話し合いの中でより良い答えを導き出す力なのです。そのようなトレーニングをする時間が道徳科だと言ってもよいでしょう。

道徳が教科になることによって、教師の意識改革、目に見える形での授業の転換が求められています。それとあわせて、新しい教科書を読みながら、家族でお話をされることも、子どもたちの家庭学習として大変有効だと思います。

問い合わせ先 教育委員会事務局 総務学事室 TEL：0859-62-0927